

わたぼうし家族会だより

2017年 第3号

35℃を超える猛暑日の日も多くなってきました。毎年夏の最高気温が記録更新されていく中、今年の夏はどこまで暑くなるのか心配になります。昔の夏とは気温の面でも紫外線の量の面でも変わってきています。“今までの暑さ対策のまま”ではいけないのかもしれませんが。改めて熱中症対策を見直し、暑さに負けず夏を乗り切りたいです。



介護に対するそれぞれの思い...



先日行われた第3回目の家族会は、現在の家族会担当者が運営を始めた2012年以降にわたぼうしを利用された方（現利用者、終了者を含む）のご家族に声をかけさせていただき、いつもより幅広い立場の方々との語り合いの場になればと計画を立てました。実際の参加人数はいつものように10名弱でしたが、2名ほどがわたぼうしをすでに卒業された方のご家族でした。今回は時間いっぱい語り合う会としてスタート！一度も話が途切れることなく、参加者同士での交流も盛んに行われていました♪現利用者のご家族からは一緒に暮らして在宅介護を続けていくことの精神的、体力的な大変さが語られる中、わたぼうしを終了し現在施設入所されている方のご家族からは、相手との距離ができたことでようやく気持ちに余裕ができ、自分自身のことにも目が向くようになった一方で、時々在宅介護時代を思い出し、「もっと〇〇してあげればよかった」という思いや、面会に行った際、施設生活を送っている家族の様子を見ると今でも様々な葛藤があり、認知症介護に対する思いはそれぞれにあることを知ることができました。また、日々の大変な介護体験を笑い話のように語り合う様子が





ありました。「傍から聞いたら楽しそうに聞こえるけど、実際は大変ですよ」と、同じような経験をしたことがある者同士、お互いの大変さをしっかり共感、理解した上での笑いがみられました。介護というのは本当にきれい事だけでは済まない現実があります。自分の中で湧き上がる、一般的には好ましくないと思われるかもしれない感情も当然あります。そんな思いを否定せずに聞いてくれる、理解してくれる人たちに素直な気持ちを吐き出すことはとても大切です。また、自分ひとりでは同じような考え方やものの見方しかできない場合でも、他者の考え方や見方を知ること、今までとは違う考え方やこれからの介護の仕方の選択肢が広がる可能性があるように思いました。認知症の本人と向き合う上で大切にすることも介護者一人一人異なると思います。介護者自身の状況や環境、思いなどで介護の仕方がそれぞれ違うことはもちろんですが、認知症の本人にとってどうなのかという見方がある事にも気づかされました。介護者自身の生活と認知症の本人にとってのよりよい生活という2つの視点を持ちながら、いろいろな立場の人のいろいろな視点を知ることが、納得のいく、よりよい介護生活を送る上でのヒントを得ることができるように思います。



次回のご案内

下記の予定で開催します。
詳細は後日ご案内します。



日時: 2017年 10月 21日 (土)
12:30 ~ 14:30